



NEWS RELEASE

林芳正内閣官房長官へ 「国民の将来不安解消に向けた提言」を手交しました

5月30日(木) 林芳正内閣官房長官を訪問し、国家財政の見える化委員会で議論を進めてきた内容について、小川賢太郎会長より説明を行い、提言を手交しました。

林芳正内閣官房長官からは「単年度予算に縛られないよう、基金を設けている。複数年度予算にした方が無駄遣いはなくなる。近年では、MMT理論(※1)を提唱する国会議員もいるが、いくら借金をしても良いとは言えない。それを国民に示すため、独立財政機関の設置に向け、議連(※2)で議論を進めている。」との発言がありました。

国家財政の見える化委員会では、不透明な国家財政を「見える化」することにより、持続可能な成長に資する適正かつ戦略的な財政運営の実現を目指し、制度実現に向けた今後の政府の動きを注視するとともに、政府への働きかけを続けてまいります。



- ※1 現代貨幣理論(Modern Monetary Theory) :
自国通貨を発行する政府は、高インフレの懸念がない限り、財政赤字を心配する必要がない
- ※2 独立財政推計機関を考える超党派議員の会

【 以下、提言概要 】

「予算制度の抜本的な構造改革に取り組み、単年度主義の弊害是正を求む」

- 成長と分配の好循環を実現する「3カ年複数年度予算制度」の導入を求む
 - 抜本的な構造改革を担う中期財政フレームの設定
 - 税金の無駄遣いを抑えるシーリング（歳出上限）の設定
- 政府を監視する国民の目となる「独立財政機関」の設置を求む
 - 実態に即した将来推計
 - 財政運営の監視
 - 国民への客観的な情報発信